



愛知県公共図書館長協議会第3回研修会
コロナ情報共有研修：ミニシンポジウム

合い言葉は「#図書館は動きつづける」 ～県立長野図書館の取組～

2022年2月17日（木）
県立長野図書館 森 いづみ

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

コロナ禍における県立長野図書館の運営方針

2

社会の状況変化と県立長野図書館の運用方針

- 2020年4月～5月（緊急事態宣言→休館）
 - ✓ 全国の公共図書館休館率：約92%
 - ✓ 長野県内公共図書館休館率：約70%、相互貸借実施率：50%
 - ✓ 県立長野図書館貸出率：5%（95%減）
- 令和2（2020）年度利用実績
 - ✓ 入館者数：対年度比 77%
 - ✓ 貸出冊数：対年度比 85%
 - ✓ インターネット予約・貸出：1.4倍
 - ✓ 電子申請による利用登録等の開始・定着
- 令和3（2021）年度
 - ✓ 入館者数、貸出冊数ともに持ち直しつつあったが第6波の影響が出てきそう

「お取り寄せ」貸出サービスの実施
（通常、館外貸出ししない参考図書も
含め、送料実費で宅配）
→貸出がゼロにならなかった

人流データの分析結果から、
行動変容を可視化
コロナ前：来館の翌日に再来館
コロナ中（後？）：2週間後に
再来館のピーク

ユーザの行動変容を
新たな強みに！
もともとあった課題を
解決していくチャンス！

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

コロナ禍における県立長野図書館の運営方針

図書館運営の基本指針：「安心」・「安全」・「安定」

- 状況（リスク評価や果たすべき役割）に応じた優先順位付け
- 積極的な情報発信を、ユーザ目線の「伝わる」ことばで
- 館内掲示、ウェブサイトのニュースをパターン化して手軽に・迅速に対応

館内運営会議で
基本方針に沿った対応を決定
→SLACKで全員に共有
→朝会でも共有

“図書館だから”できることを、できるかぎり、みなさまへ。 2021年1月29日 県立長野図書館

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、長野県内の警戒レベルも変遷します。緊急事態宣言が再発出される可能性もあふれ、県立長野図書館におけるサービス状況の変化と図書館利用イメージを示しました。県立長野図書館では「安心・安全・安定」をコンセプトとして、利用されるみなさまの健康を守ることを第一に、図書館の持つ情報源をできる限りお届けできる形を探っています。どうぞご理解ご協力をお願いいたします。

◆長野県における警戒レベルの強化に対応した図書館利用イメージ ※状況により変動します
みなさまが県立長野図書館でできること

警戒レベル	感染症発生数	感染拡大状況	対応
レベル3	● 感染者数が増加している状態です。	● 来館された方々の安全を守るために「図書館でなければできないこと」を優先してサービスに切り替えます。	● 資料の調査閲覧、貸出、インターネットやデータベース、イベント開催など、様々な形でご利用いただけます。
レベル4	● ソーシャルディスタンスを促すため、椅子の数を減らして間隔をあけています。	● 定期的な換気や消毒による感染対策を行います。	● 専用窓口でのネット予約の受け取りが推奨されますが、館内で資料を選び、貸出を行うことも可能です。産廃はご利用いただけません。
レベル5	● 感染拡大を防ぐ対策が緊急を要する状態です。	● 外出自粛の要請に伴い、図書館が休館となった場合でも「情報リンク先がアクセス可能な状況」を優先して見られます。	● 専用窓口でネット予約の受け取りができません。館内ではご利用いただけません。
レベル6	● 職員も少人数対応となりますが、メール返信やホームページの更新などによる適宜行い、図書館の動きが止まらないよう努めます。		

警戒レベルに関わらず、ご利用いただけます

- お近くの図書館が閉鎖している場合は、それらを通して当館の本も受け取ることがあります。（開館状況については担当の館までご確認ください）
- 感染症による当館資料の「被害」への対応策（送料実費）が可能です。
- デジタル化された地域関連資料が、インターネット経由（良州ナレッジズクラブ）でご覧いただけます。
- メール電話対応での図書サービスは対応いたします。
- そのほか、県立長野図書館のサービス状況については、県立長野図書館ホームページでご案内いたします。

県内公共図書館 ML、ウェブサイトの関係者ページで共有

コロナ対応に関するストレス・不安をなるべく低減したい

館名	平日	土曜	日曜	祝日	休館	開館	貸出	閲覧	資料請求	インターネット	データベース	予約	返書	お問い合わせ
長野県立図書館	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
市立図書館	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
町立図書館	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
公民館	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

コロナ禍における県立長野図書館の運営方針

図書館運営の基本指針：「安心」・「安全」・「安定」

- 2020年4月時点の方針：公共施設の一律休館要請
 - ✓ 緊急事態宣言下、体育館・文化施設等、全ての県有公共施設の一律休館要請
 - ✓ 休館時の専用窓口による貸出も不可
 - ✓ 再開時の来館記録の指示→「図書館の自由に関する宣言」の趣旨を説明し、連絡票という形で2週間のみ実施（焼却処分済み）
- 2021年1月時点の方針：
 - ✓ その後の教育委員会内での相談・合意形成により、県独自の警戒レベル6（＝「まん防」適用）における休館時でも専用窓口による貸出を可能に
- 2022年1月時点の方針：
 - ✓ 県の「まん防」適用時の方針として、社会生活の維持と感染症対策を両立させるため、公共施設の一律休館要請はしない
 - ✓ 図書館：リスク評価と感染対策を行ったうえで開館（レベル5相当のサービスレベルを維持）

県内市町村図書館の現況調べ（2022/2/4現在）
入館不可（＝休館）35%
完全な休館：8館（14%）
窓口貸出：17館（21%割）

各自治体の事情に応じながら横の情報連携でウイズコロナの対応策が浸透しつつある

コロナ禍における県立長野図書館の運営方針

5

図書館運営の基本指針：3つの「安」を前提とした、「挑戦」

- 「資料・情報」を届ける：
 - ✓ 「お取り寄せ」貸出サービス：普段は館外貸出ししない参考図書も含め宅配
 - ✓ メールベースでのレファレンス：確実に増えている
 - ✓ **コンテンツのデジタル化・ネットワーク化（戦略的に力を入れてきた）**
- 「人・情報・空間」をつなぐ：
 - ✓ **リアルとバーチャルをつなぐ、ウェブを活用したコミュニケーションの場（ハイブリッド開催の標準化）**
 - ✓ ラボ・デザイン会議、ラボカフェ、モノコトベース・ものづくりコミュニティの活動
- 「共に知る・学ぶ」「創ることで学ぶ」を実践する：
 - ✓ **図書館職員研修の一環「これからの公共図書館研究会」**
 - ✓ 誰にでもオープンに開かれた学びの場
 - 信州発・これからの図書館フォーラム「共知・共創の広場へー もう一步踏み出す」シリーズ
 - #1 どこコレのつくり方、 #2 電子ブックって？、 #3 災害情報と図書館、
 - #4 信州の「はたらく」を考える、 #5 Wikipedeia@LIB
 - Learn by Creation NAGANOへの関わり（組織や立場、年齢も越えて共に学び合う場をつくり、長野県に学びの 関係人口を増やすことを目指す団体）

共通するのは、「手段を多様化する」「選択の幅を広げる」ということ

一步前に踏み出すためのスキルアップ & きっかけ作り

「しか、ない」を「も、ある」に変えていくための発想と工夫

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

図書館を取り巻く社会の状況で見えてきたこと

6

もともとあった課題：図書館に求められていること

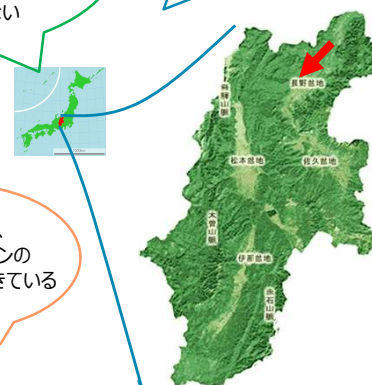
- 人口 **2,017,971人**(2022.12.1現在)
 - 自治体数 **77** (市：19 町：23 村：35)
 - 公共図書館数 **120** 館 (本館71 分館49)
 - 未設置自治体 **21** (町：6 村：15)
未設置率 **27%**
未設置自治体総人口/県総人口 = 4%
 - 人口1人当蔵書冊数（紙媒体の本）
(2019年度末・県立長野図書館除く)
県内10地域の平均値：
0.3冊～10.1冊（地域によるバラつきが大きい）
- | | | | |
|--------|------|----------|-----|
| 佐久地域： | 10.1 | 木曽地域： | 0.7 |
| 上田地域： | 5.2 | 松本地域： | 4.5 |
| 諏訪地域： | 7.0 | 北アルプス地域： | 7.8 |
| 上伊那地域： | 6.9 | 長野地域： | 3.3 |
| 南信州地域： | 9.3 | 北信地域： | 3.4 |

※長野地区：県立長野図書館を除いた値

条例設置による図書館の有無にかかわらず、図書館利用の意思があれば利用はできる状態。しかし、誰もにとって身近にあるというわけではない

山間部が多く広い県域を持つ長野県だからこの施策が必要

情報の形も、コミュニケーションのあり方も変わってきている



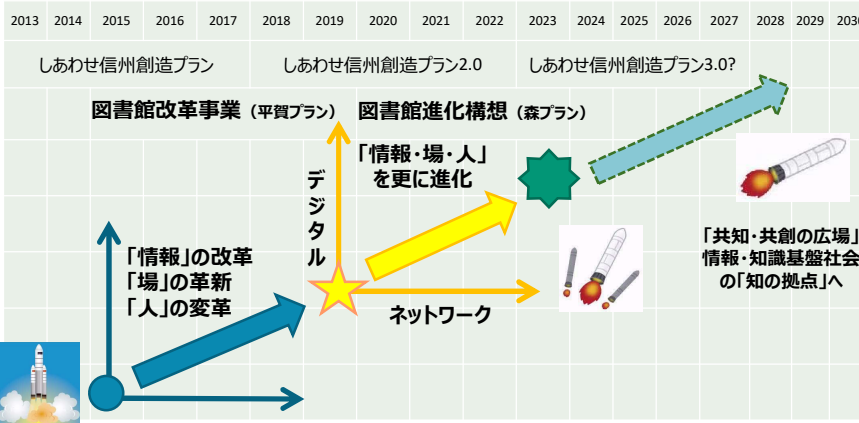
県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

図書館を取り巻く社会の状況で見えてきたこと

7

図書館改革から図書館進化へ

- 長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」
 - ✓ チャレンジプロジェクト①人生を豊かにする創造的な「学び」の基盤づくり
 - ✓ **リアルとバーチャルのベストミックス** 次期計画への橋渡し



- 全ての県民が等しく
情報にアクセスできる
基盤を構築
→ 活用方法の浸透
- 情報リテラシーを
身に付けられる
仕組づくりと展開

共に知り、共に創る「信州・学び創造ラボ」

8

2020年 コロナ禍の中で



※朝倉 久美「人・情報・空間」のつなげ方～動き続ける図書館をめざして～
 福岡県公共図書館等協議会職員研修会 大会テーマ：非来館型サービスを考える(2021/02/15)
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/61/210215_fukuoka.pdf

リアルとバーチャルをつなぐ、ウェブを活用したコミュニケーションの場

9

- コロナ禍でも実験・実践しつづけた「ウェブを活用したコミュニケーションの場づくり」

配信元 ↓ 個人接続	配信元 ↓↑ 受信会場	配信元 = サテライト
コロナ急性期 集合できない代替措置として リアルからバーチャルへの転換	コロナ緩和期 「集まる」と「繋がる」を模索 リアルを取り戻す(立ち返る)	コロナ共存期 主体的選択としてのオンライン リアルとバーチャルの融合
4月「公共フォーラム(こっそり ごっそり)」本番・そのあとに 5月「ラボカフェ オンライン①」 6月「ラボカフェ オンライン②」	7月「ラボ・デザイン会議」 8月「ラボカフェ もりラボ」 9月「ラボカフェ うなずき珈琲」 10月「公共図書館長研修」	8月「公共フォーラム(一楽荘)」 9月「信州・知の連携フォーラム」 10月「長野県図書館大会」 10月「Re:Publicの逆襲」
▲持続的な図書館活動 “図書館は動き続ける” ▼接続・配信スキルが左右する 特定のターゲットを対象 「来館者のための図書館」	▲集まることの良さを再確認 コミュニケーションの可能性 “ウェブの中のパブリック” ▼多くが“参加者”に留まる 関係性および場の固定化	▲双方向のやりとりによる“参 加者”から“場を作る一員”へ の転換(主体的、能動的) ▼意識共有と継続システム (モノ・ヒト・コトの整備不足)

選択の幅が
 広がると
 状況変化に
 強くなる！

※朝倉 久美「人・情報・空間」のつなげ方～動き続ける図書館をめざして～
 福岡県公共図書館等協議会職員研修会 大会テーマ：非来館型サービスを考える(2021/02/15)
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/61/210215_fukuoka.pdf

県立長野図書館
 Nagano Prefectural Library

Labo.Cafe#9 うなずき珈琲 (それいいね!の会)

10

- 集まれる状態なら、集まる。でも、オンラインでの参加の窓も開く
- 誰かのやってみたくことが、自分のやってみたくことにつながり、広がる



次の
 アクション
 へ！

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_200920.html

県立長野図書館
 Nagano Prefectural Library

Labo.Cafe#10 うなずき珈琲（館長カフェの会）

11

- 「ミッション・ビジョン」の検討プロセスを地域に開き、オープンに語り合う広場
- コロナの経験を踏まえて、1年後、5年後、30年後、100年後の図書館を考えたい



こういう話が
できる場に
参加できたことが
嬉しかった

夢の実現に
つながる場所

社会の中で
弱い立場の人に
寄り添うところで
あってほしい

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_210227.html

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場（令和3年度概要より）

12

使命 (Mission)

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会的な普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

展望 (Vision)

「知る」・・・情報の改革：いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報を入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。

「出会う」・・・場の革新：考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。

「育む」・・・人の変革：いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r3_gaiyou_ocr.pdf

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (令和3年度概要より)

13

行動指針 (Value)

協働します：(Collaboration コラボレーション)

県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学术界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。

接続します：(Connecting コネクティング)

さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」をつなぎ合わせます。

強みを生かします：(Competency コンピテンシー)

図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。

挑戦します：(Challenge チャレンジ)

市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長する、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r3_gaiyou_ocr.pdf

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (令和3年度概要より)

14

事業計画 (Action Plan)

- (1) **資料・情報**：いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。
- (2) **空間・場**：実空間である図書館の1～2階のフロア、3階の「信州・学び創造ラボ」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- (3) **人材育成**：潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- (4) **長野県eLibrary計画**：図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリーに分類し、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。「信州 ナレッジスクエア」の拡充と、電子書籍サービスの新規導入の検討を重点的に進めます。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r3_gaiyou_ocr.pdf

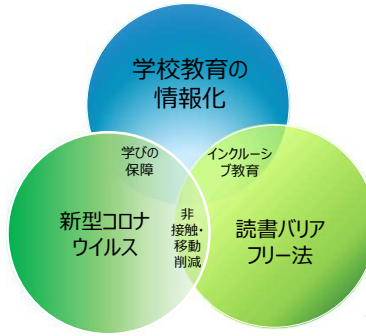
電子書籍サービスの新規導入に向けて

15

そもそも図書館の本来の役割は

- すべての住民が自由に「情報」へアクセスできる基盤をつくること

- 学校の教育課程の展開に寄与
- 児童生徒の健全な教養の育成



3つの社会課題に同時に向き合う手段の一つが「電子図書館」

- しかし、単独では予算面、運用面でハードルが高い

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築できないか

図書館利用率：住民の3割程度
→残りの7割へのアプローチ！

✓ 書籍へのアクセスを保障

「感染状況」「災害」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる。

+

✓ リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮の要否」等により 図書館を利用しにくかった人たちにサービスを届ける。

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

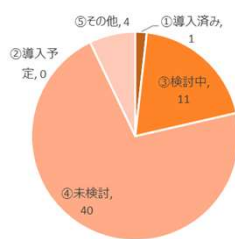
県内公立図書館現場における電子書籍に対する課題認識

16

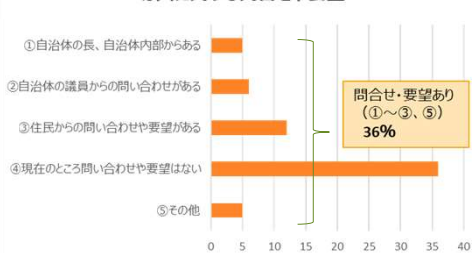
「電子図書館」導入は単独では難しいという声が多く、自治体間連携に期待あり

「電子書籍貸出サービス」に関するアンケートより ※令和3年1月に、長野県内の公立図書館56館から回答

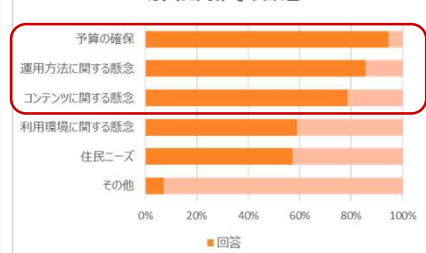
「電子書籍貸出サービス」の導入について検討しているか？



導入に関する問合せや要望



導入に向けての課題



望ましい導入方法



【各種コメント】

- ・具体的ではないが、導入の意向は持っている。
- ・村議会一般質問にて議員より質問があった。
- ・資料デモや業者説明等、職員の研修を開催したものの導入には壁が多すぎる。
- ・図書館が浸水被害に遭い、必要性を痛感している。

DX推進課 / DX.Promotion.Div.

県立長野図書館
Nagano Prefectural Library

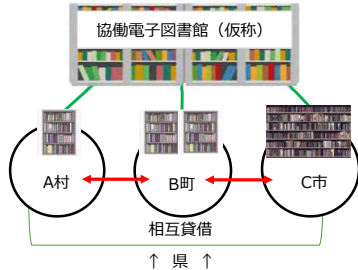
自治体を越えて協働する枠組みの可能性

従来からの協力体制の延長線上に、新しい図書館間連携体制を築きたい

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館（仮称）によって、さまざまな「情報格差」の解消を図る。
- 電子化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として、関係各所の連携を視野に入れる。

紙と電子のメリットを生かしたハイブリッド図書館による解決策

■「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して住民へ提供を行っていく。= **住民サービスの充実**

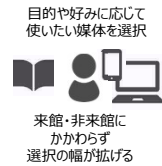


■メリット

- ・蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツ。
- ・紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減。
- ・図書館が未設置でも電子書籍が使えることで**学びの環境が強化**。
- ・**図書館の利用をしていなかった潜在的な利用者層への呼び水**となる（読者層が広がる。図書館利用の契機になる）。

■期待される効果

- ・いつでもどこでも情報アクセス
- ・情報格差の解消へ一歩前進
→学びの多様化・学び手の増加
→各自治体の「地方創生」推進に期待



市町村と県による協働電子図書館(仮称)協働構築研究ワーキンググループ(WG)

DXを推進する協議会と、図書館協会が相互に連携して事業の枠組みを議論

長野県先端技術活用推進協議会（DX推進課が所管）

WG WG

市町村と県による
協働電子図書館(仮称)
協働構築研究WG

連携協力

長野県図書館協会

公共図書館部会

これからの公共図書館研究会

WGリーダー 会議の招集/ WG運営に関することなど
県立長野図書館長
WGサブリーダー 市町村のとりまとめ/ R4チーム運営に関することなど
坂城町立図書館長
WGメンバー 情報提供、意見調整/ 事業参加検討/ 提案・意見/ 資料作成など
76団体 ※2/8現在 19市23町30村 + 2広域連合 + 自治振興組合 + 県 (図書館、教育委員会文化財・生涯学習課、DX推進課)

- ・ 8月のキックオフ～WG7回
- ・ 作業チームミーティング多数
- ・ (仕様策定、利用登録、選書、利用支援・広報)
- ・ 自治体向説明会開催
- ・ 各地区図書館関係会議
- ・ 教育長会議、市長会、町村会等で説明

自治体や館の規模、サービスポリシー、選書基準電子メディアのサービスへの温度差多くの違いを乗り越えて顔の見える関係に

デジタル活用

資料活用・レファレンス

図書館サービス計画

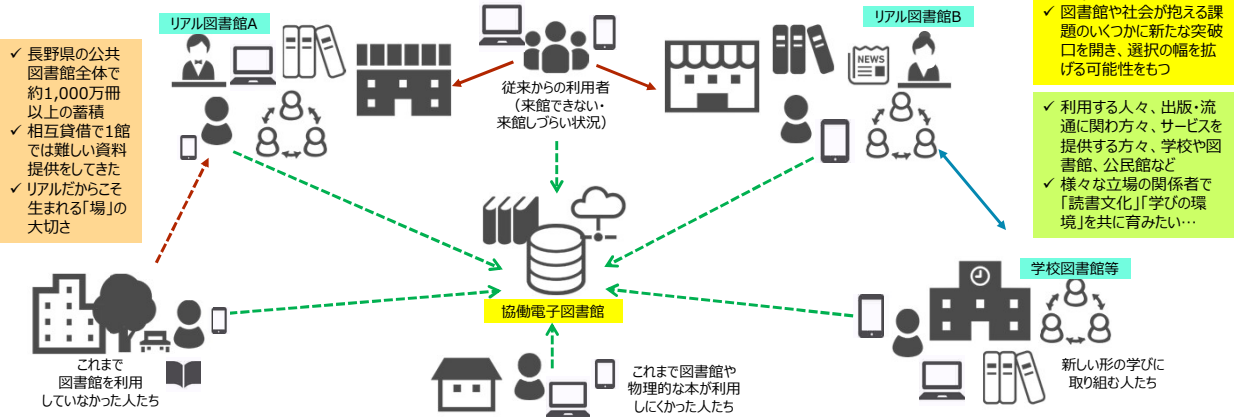
学びのプログラム・学校連携

電子書籍についても話題にしてきた

目指していきたい将来像

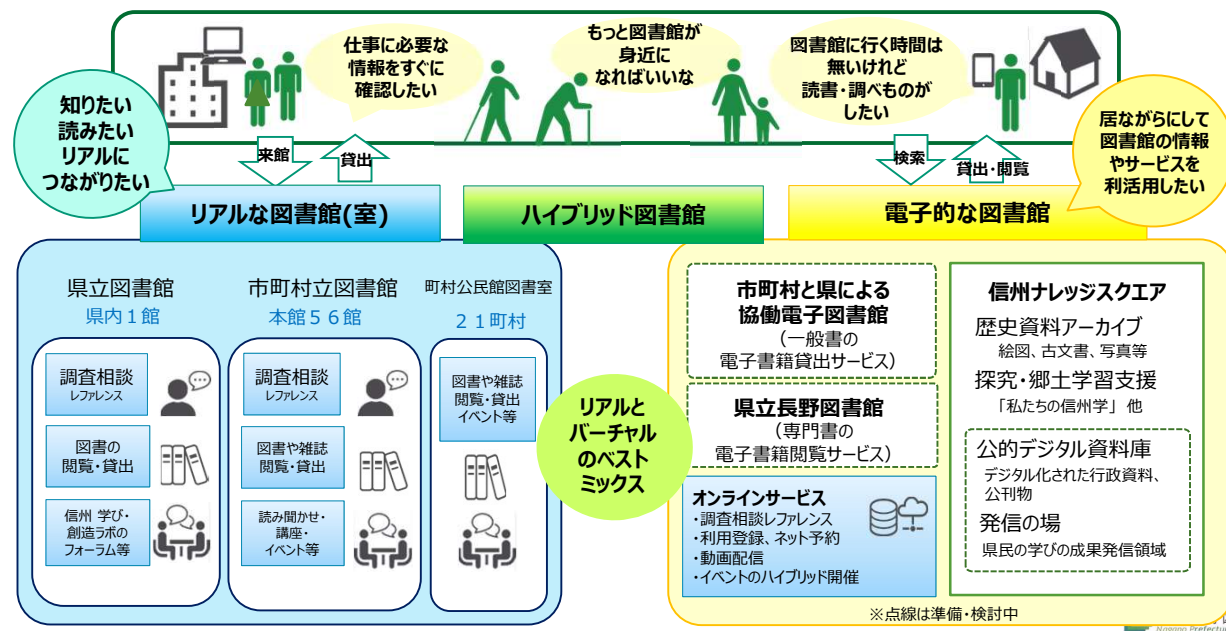
全ての人たちが、自分にとっての「知る」「学ぶ」姿のベストミックスを選択できる世界

- 人・地域・情報が直接つながりあう「リアルな図書館」と、ICT等を活用した「バーチャルな図書館」の良さが合わさる = 「ハイブリッド図書館」が将来の理想像



一人一人が選択できる・コミュニティでも活用できる：リアルとバーチャルのベストミックスを目指していく

だれ一人取り残さない公正な社会のために“図書館だから”できること



参考資料：社会から期待されていること（「長野日報」2022/01/01）



1回目の緊急事態宣言における休館から2年、新たな図書館の姿に期待が寄せられています

参考資料：社会から期待されていること（「長野日報」2022/01/01）



図書館は動きつづける

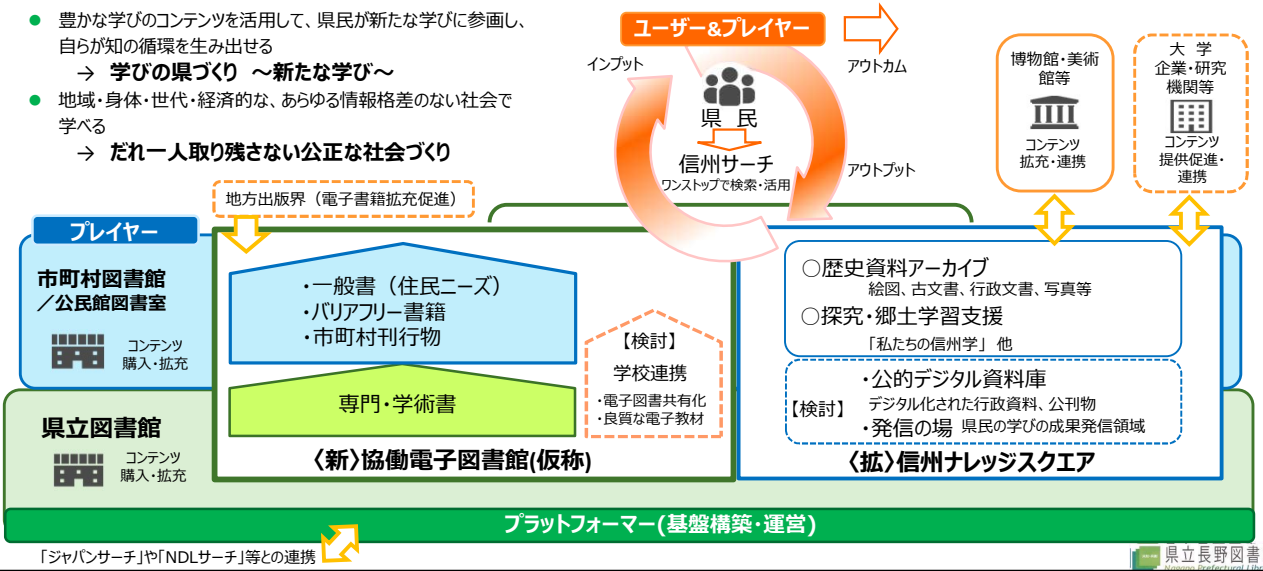
いついかなる時にも「知りたい」「学びたい」を支えるために

地域活性化へ 応用も視野に

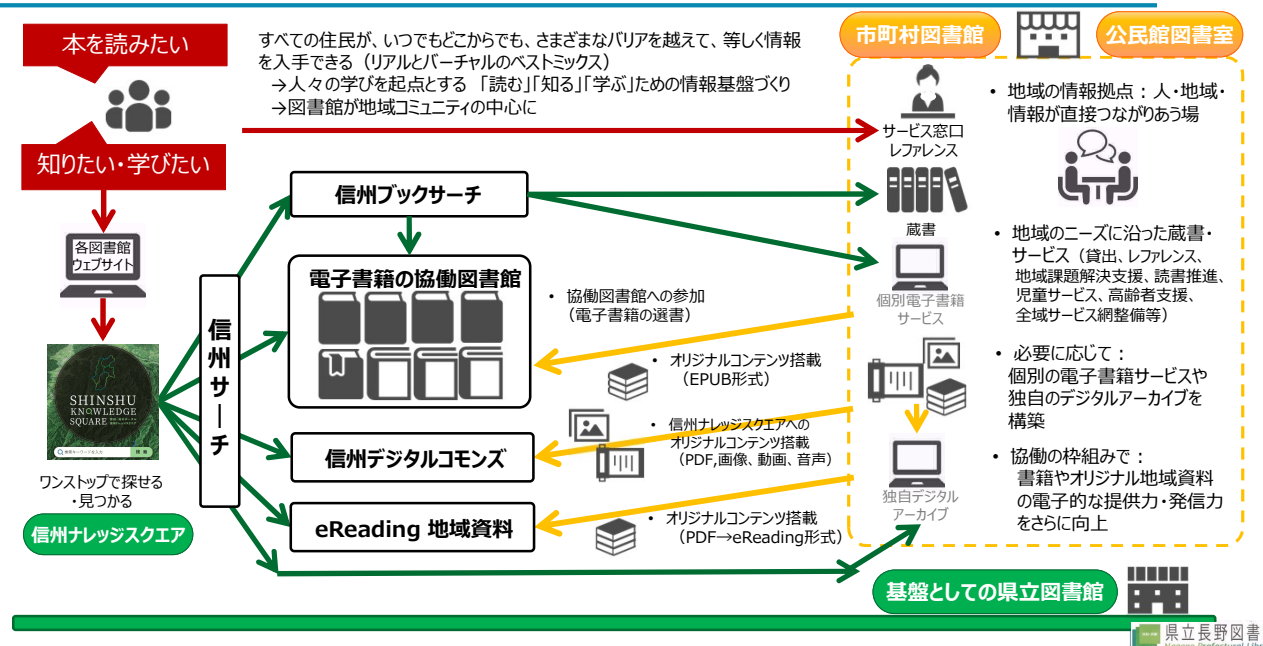
いついかなる時にも「知りたい」「学びたい」を支えるために――図書館は動きつづける

公共図書館のDX推進による新たな知の循環システムの創造 (たつき台)

- 豊かな学びのコンテンツを活用して、県民が新たな学びに参画し、自らが知の循環を生み出せる
→ **学びの県づくり ～新たな学び～**
- 地域・身体・世代・経済的な、あらゆる情報格差のない社会で学べる
→ **だれ一人取り残さない公正な社会づくり**



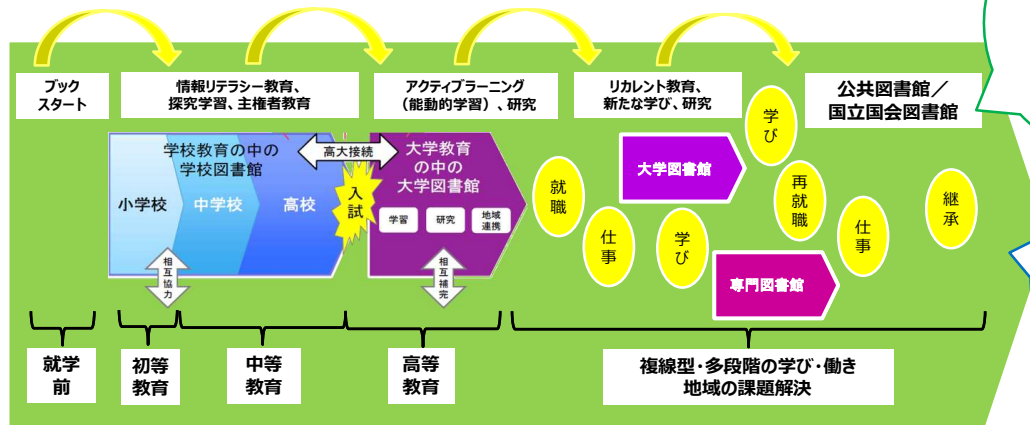
参考資料：従来の機能+αでハイブリッド化した図書館のイメージ



参考資料：図書館を取り巻く社会の状況で見えてきたこと

学ぶ人が中心：人生100年時代の図書館とは・・・？

- 公共図書館は、「乳幼児から高齢者まで」学習者一人一人の生涯にわたって、学びの機会を架橋し、「自己教育」を支え続けるという役割を持つ
- 学習者を中心に考えた、館種を越えた関係プレイが必要



一人一人の
ライフサイクルに
おける学びに
最も長く携わるのは
公共図書館！？
↓
コーディネータ役を
担えないか

長野県版の
MLA連携
「信州 知の連携
フォーラム」も
図書館が
コーディネータ役を
担っている